

会 議 録 (案)

会議の名称	第1回小金井市保健福祉総合計画策定委員会
事務局	福祉保健部地域福祉課地域福祉係
開催日時	平成28年11月11日(金)
開催場所	前原暫定集会施設 A会議室
出席者	第1回小金井市保健福祉総合計画策定委員会 発言内容・発言者名のとおり
傍聴の可否	可
傍聴者数	0人
傍聴不可等の理由等	—
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 委嘱状交付 2 副市長挨拶 3 委員自己紹介 4 事務局職員、コンサルタント会社研究員紹介 5 委員長、副委員長の選出 6 保健福祉総合計画策定概要について 7 アンケート調査票について 8 次回日程等について 9 謝礼振込みに関する事務処理について
発言内容・発言者名 (主な発言要旨)	第1回小金井市保健福祉総合計画策定委員会 発言内容・発言者名のとおり
提出資料	<ol style="list-style-type: none"> 1 委嘱状 2 小金井市保健福祉総合計画策定委員会設置要綱(資料1) 3 小金井市保健福祉総合計画策定委員会委員名簿(資料2) 4 第1回小金井市保健福祉総合計画策定委員会席次(資料3) 5 小金井市保健福祉総合計画策定概要(資料4) 6 詳細スケジュール(資料5) 7 アンケート調査票「一般市民調査」(資料6) 8 アンケート調査票「担い手調査」(資料7) 9 口座振替依頼書 10 マイナンバー記入用紙 11 小金井市しあわせプラン

	<p>(第4次小金井市基本構想・後期基本計画)「誰もが安心して暮せる思いやりのあるまち(福祉と健康)部分抜粋」</p> <p>1 2 小金井市保健福祉総合計画(平成24年3月)</p> <p>1 3 第4期小金井市障害福祉計画(平成27年3月)</p> <p>1 4 第6期小金井市介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画(平成27年3月)</p>
--	--

第1回小金井市保健福祉総合計画策定委員会 発言内容・発言者名

日時 平成28年11月11日(金) 午後6時30分から午後8時30分まで
場所 前原暫定集会施設 A会議室
出席者 12名

委員長	金子 和夫	委員			
副委員長	深澤 義信	委員			
	高橋 信子	委員	橋本 怜史	委員	
	羽田野 勉	委員	宮城 眞理	委員	
	齋藤 寛和	委員	星野 千恵子	委員	
	宮井 敏晴	委員	矢野 典嗣	委員	
	山極 愛郎	委員	藤森 寿美子	委員	

副市長	上原 秀則		
事務局	福祉保健部長	佐久間 育子	
	地域福祉課長	関 次郎	
	自立生活支援課長	藤井 知文	
	生活福祉担当課長	高橋 美月	
	介護福祉課長	高橋 正恵	
	高齢福祉担当課長	鈴木 茂哉	
	健康課長	當麻 光弘	
	地域福祉課係長	井出 信綱	
	地域福祉課主任	藤榮 兄	
	地域福祉課主任	中川 法子	
委託事業者	株式会社 生活構造研究所		

◎地域福祉課長：それでは定刻となりましたので始めさせていただきます。委員長が選出されるまでの間、私が司会を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。
(資料確認)

次に、会議録作成の方法を決定したいと思います。規定に従いまして、「全文記録」「発言者の発言内容ごとの要点記録」「会議内容のみの要点記録」の3つの中から決めさせていただきます。

◎深澤委員：読みやすく分かりやすい方法を考えると、「発言者の発言内容ごとの要点記録」がよいと思います。

◎地域福祉課長：ご異議はございませんか。

◎委員一同：異議なし

◎地域福祉課長：それでは「発言者の発言内容ごとの要点記録」といたします。記録の関係で、発言の際にはお名前をお願いいたします。

1. 委嘱状交付

2. 副市長挨拶

3. 委員自己紹介

◎地域福祉課長：本日は策定委員会の初日でございますので、委員の皆さまより自己紹介を頂きたいと思います。

◎高橋委員：私は今、小金井市の手話講習会で手話を勉強しております。小金井市の聴覚障害者の会が作ったTシャツを着てまいりました。それから、墨田区が作った、「耳が聞こえません」ということを示すバンダナを持ってきました。地域福祉はなかなか難しいと思いますが、こういうグッズで浸透していくというのもいいかと思います。皆さんと協議できるのを楽しみにしています。

◎橋本委員：小金井に住んで20年以上になりますが、現在は市内のしんあい保育園に勤務しています。今回このような大役を仰せつかりまして、自分としてもまだまだ勉強不足ではありますが、小金井市をより住みよいまちにしていくために、みなさまと力を合わせてよりよい計画を作っていければと思います。

◎羽田野委員：今回で市の委員は4回目になりますが、福祉関係の委員は初めてです。福祉は普通に暮らす幸せというらしいので、それがどういうものなのか、仕組みづくりなど、皆さんと考える力になればと思います。

◎宮城委員：私は梶野町三丁目の大学病院の病院住宅に住んで10年になります。その前は沖縄で健康教育を担当しまして、喫煙、肥満等、市民の皆さまや病院の患者さんのために力を注いできました。その後、大学の看護教員として働いてきましたが、昨年フルタイムを退職しまして、今は健康教育とスピリチュアルケアを担当しています。恥ずかしい話ですが、家と大学の往復で、地域に対して何の貢献もしてこなかったもので、喫煙について論文を書いたり、実際に活動したりしてきましたので、特に健康教育の面でお役に立てればと思います。

◎金子委員：三鷹にあるルーテル学院大学の教員をやっています。私は小金井に住んで

いるわけでも職場でもありませんが、17年間中央線で通過してきました。そこから見た小金井市は緑もあるし、昔ながらの風景も残っている中で、そこに暮らしている人がいるということを前提にしながら、この総合計画作りに私なりの知識や技術がお役に立てればと思います。

◎**深澤委員**：小金井市社会福祉協議会から参加させていただきます。日ごろは社会福祉協議会にもご協力いただきまして、ありがとうございます。こちらのほうでもご協力させていただければと思います。

◎**齋藤委員**：医師会から参りました。3年前の委員会でも委員をさせていただきました。そのころは嫌々やっていたのですが、今回は医師会の社会的責任のようなものに目覚めまして、地域包括ケアシステムの構築を仕事としてやらなくてはいけないと思っております。本来なら副会長あたりがくるころでしたが、無理にお願いをして私が参加させていただきました。今度は力を入れてやりたいと思います。

◎**星野委員**：小金井市で民生委員をしています。ずっと家庭の主婦でいましたが、民生委員になって6年が経ちました。少しでも市のお役に立ちたいと思ひまして、民生委員を受けてここまで来ましたが、まだまだ知らないことばかりですので、この場をお借りして色々勉強させていただきたいと思ひます。

◎**宮井委員**：NPO法人から推薦されてきました。普段は新小金井の就労支援B型のワークセンター「あい」の施設長をしています。よろしくお願ひします。

◎**矢野委員**：小金井市の地域自立支援協議会から推薦されて参加させていただいております。もともとは都立の小金井の特別支援学校で教員をしていました。退職して、今は青年学級みんなの会という知的障害の学級で講師をしています。自立支援協議会との橋渡しとして参加させていただきます。

◎**山極委員**：社会福祉法人聖ヨハネ会から参りました。市から委託を受けている本町高齢者在宅サービスセンターの施設長をしています。5年前に小金井市に来ましたが、10年以上前から小金井市民とは関わっており、介護予防に携わってきました。小金井市民の自主的な、自分の健康は自分で守るということを感じてきていまして、あるとき利用者の方から、介護予防は生きがいとかではなく、寝たきりにならないための切羽詰った問題なのだとお話しをされまして、いつか小金井で働きたいと思ひていました。

◎**藤森委員**：市民健康づくり審議会から推薦を受けてまいりました。それ以外に小金井市体育協会の理事と、スポーツ推進協議会の副会長をしております。小金井市民の健康のために、運動を元に力を注いでいけたらと思ひます。

4. 事務局職員、コンサルタント会社研究員紹介

5. 委員長、副委員長の選出

◎**地域福祉課長**：委員長、副委員長は委員の互選により選出するものとなっております。まずは委員長の選出をしたいと思ひます。従前の例でいくと、指名推薦が多いのですが、何か選出の方法についてご意見はございますか。

◎矢野委員：指名が良いと思います。

◎地域福祉課長：今、矢野委員よりご意見を頂きましたが、これについてご意見はございますか。

◎委員一同：異議なし

◎地域福祉課長：ご異議がないということで、指名推薦で選出に入りたいと思います。どなたか指名される方はいらっしゃいますか。

◎矢野委員：ルーテル学院大学の金子先生にお願いしたいと思います。福祉行政等に詳しいそうなので、ぜひお力を頂きたいと思います。

◎地域福祉課長：委員長に金子委員を推薦するご意見を頂きましたが、ご異議はございませんか。

◎委員一同：異議なし

◎地域福祉課長：それでは、委員長は金子委員に決定いたしました。

◎委員一同：(拍手)

◎地域福祉課長：金子委員よりご挨拶を頂きたいと思います。

◎金子委員：小金井市は私の職業生活の中では、通り過ぎるだけの市でしたけれども、昨年度から他のこともありまして、通り過ぎる市から立ち止まる市に変わってきました。少しでも皆さんのお役に立てればと、計画作りに力を発揮させていただければと思います。色々なところで計画作りに参加してきた経験から言いますと、それぞれの市の持つ力というのがあると思います。その力を決して過大評価、過小評価することなく、市の持つ力を生かした計画作り、この市が持っている力を十分に発揮できる計画作り、その計画に基づいて、住民の方々や通勤通学する方々も含めて、非常事態になっても、この町に住んでよかったなと感じられるような計画作りが出来ればと思っております。

◎地域福祉課長：ここからの進行は委員長にお任せしたいと思います。

◎金子委員長：副委員長の選出に入りたいと思います。副委員長の選出について、何かご意見がございいますか。特にご意見がないようですので、私の意見を申し上げますと、副委員長は委員長が出席できない時を考え、委員会の運営のご経験のある方が適任だと思いますので、社会福祉協議会の深澤委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

◎委員一同：異議なし

◎金子委員長：それでは深澤委員、よろしくお願ひいたします。

◎深澤副委員長：委員の皆さまと協力して委員長を支えていければと思います。社会福祉協議会でも今回の計画を元に細かい計画を作っていきますので、力を入れていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

6. 保健福祉総合計画策定概要について

◎金子委員長：計画策定概要について、事務局よりご説明をお願いします。

◎事務局：(資料4、5説明)

◎金子委員長：今の事務局からのご説明に対して、ご意見、ご質問等はございますか。

◎橋本委員：担い手調査の調査対象であるこがねい市民活動団体リストの登録団体とい

うのは、具体的にはNPO法人などですか。

◎事務局：NPO法人や、任意の活動団体などがあります。

◎橋本委員：これは自主的に登録するものですか。

◎事務局：コミュニティ文化課で受付をしています。そこに掲載のお願いがあった団体は載せています。

◎橋本委員：昔から地域福祉のために活動されてきた団体でも、登録していなければこのアンケートは送られてこないということですか。

◎事務局：そういうことになります。

◎矢野委員：スケジュールについて、平成29年4、5、6月の3ヶ月で現行計画を評価するのかと思います。各事業の達成度について、私たちはどのように聞いて評価すればよいのですか。

◎事務局：数値で取れるものについては、小金井しあわせプランで成果指標を設けておりますが、細かく定めているものではないので、その他については、アンケートの調査結果やいただいたご意見、事業の施策実施状況をお伝えするので、それに対してご意見をいただければと思います。

◎金子委員長：担い手調査はリストにある団体へ、悉皆調査ですか。

◎事務局：リストにある福祉・医療の団体85団体には悉皆調査となります。100団体を目安に考えていますが、まずはリストの85団体に調査いたします。

7. アンケート調査表について

◎事務局：(資料6、7説明)

◎金子委員長：このアンケート調査票につきましては、委員の皆さまに事前に送付させていただいて、ご通読いただいていると思います。

①一般市民調査について

◎金子委員長：まずは一般市民調査の方から、皆様にご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

◎高橋委員：F3で、「あなたはどちらにお住まいですか」ということですが、例えば今施設や病院にいる方は、住民票のあるところに○をするのでしょうか。「11 その他」を作ってもいいかと思います。

問2で「誰とでも親しく付き合っている」と言われると、私としては○をしにくいので、「誰とでも」ではなく「多くの人々と」としたほうがいいと思います。

問4は、居場所は「ある」「ない」の二択でいいのではないかと思います。

問8以降で「○は3つまで」というのがたくさんありますが、「あてはまるものすべてに○」としたほうが、回答する立場としては○をしやすいと思います。

問9は、点線で囲って矢印が伸びているので、縦に質問を羅列したほうが、そのまま視線が下に行くので、回答しやすいのではないかと思います。

問10で、「4 活動時間や曜日が自由」とあります。自由だと参加しやすいという人もいるとは思いますが、「活動時間や曜日が自分の生活スタイルに合っている」ということで参加しやすい人もいるので、そういうことを追加してもいいかと思います。

問11や問13も「3つまで」ですが、選択肢を絞るのが難しいと思います。

問13の下に自立相談サポートセンターの住所が書いてありますが、連絡したいと思ったとき、電話番号まで書いてあると、その場ですぐに連絡できると思います。

問15は、自分としては「ふつう」があると答えやすいと思います。

問16の(7)の「志望先」というのがよくわからないのですが、「進学先」であれば、高校や大学に進むのではなく就職したとか、そういうことなのかと感じました。

問19で、このほかに「避難所での生活」、「相談機関があるか」、「不安解消に役立つ情報が得られるか」といったものが私は心配です。以上です。

◎金子委員長：ただいまのご意見・ご質問について、事務局からご回答があればお願いします。

◎事務局：選択肢がたくさんある間で3つまで○にしているものは、敢えて3つ選んでもらって、重さを見たいという意図がございます。「いくつでも○」とすると、たまに全部に○をつける方もいらっしゃいます。そうすると結局どれが一番考えていることなのか分からなくなってしまうことがあるので、いくつかの質問では3つまでに限らせていただくかもしれません。

◎金子委員長：今のご意見・ご質問の中で、問19は経年変化を見るためにあまり問を変えずにいきたいということでしたが、時代の変化もあり、これだけ大規模災害がある中で、やはり避難所に避難した人たちの色々な心配事を考えると、今ご意見いただいたようなことも入れてもいいと思います。

マルチアンサーについても、あまり多いと調査会社のほうで困ると思いますので、私がお答えすることではないのですが、3つくらいが適切かと思います。

◎矢野委員：市の防災計画が去年見直されて作られたということですが、それを市民がどれだけ知っているかということは一つ大きな問題かと思います。

皆さんが例えば避難所での生活についてどのようなイメージを持っているのかとかがとても大事になるので、そういうことを行政がどのように発信しているのかと関わってきます。

私たち自立支援協議会では、障がい者が避難所で過ごすにはどうしたらいいかという「避難所運営10か条」を作成し、「こういう配慮をして避難所を運営してください」とか、障がい者の方には「普段からこういう準備をしてください」といったチラシを作りました。一応作成はしたのですが、それを市民に投げかける術を持っていないので、今はホームページ上に載せるくらいにとどまっています。

熊本県では行政が色々なところで対応できませんでした。普段から市民や地域と連携を取って、防災のシステムを生きたものにするということが必要です。作った計画が実際にどう活用されるかは、市民のものになっているかどうかですごく違ってくると思います。基本的に学校が避難所になるでしょうから、行政と学校と周辺の自治会等がいち早く、どういう形で避難所の運営ができるかが大事だと思いますので、調査の中で市民に、どういうことを意識しているのか等を聞いたほうがいいと思います。

それから、福祉の制度・サービス等のところで、小金井しあわせプランで高齢者の虐待対応のことが書かれていますが、単に高齢者の問題だけでなく、障がい者や子ども、家庭内暴力など、色々な形で虐待があります。いつでも相談できる窓口があるというこ

とを知ってもらうためにも、権利擁護だけでなく、そのこともこの中に入れたらどうかと思います。

◎**事務局**：地域防災計画については、入れる場合は問18になるとと思います。もう少し踏み込んで、実際に被害にあったときにどのように対応できるかイメージできるかといった内容になるかと思いますが、この問の一つひとつが「避難場所を知っていますか」「食料や日用品の備蓄をしていますか」といったことで、総合的に見ればそういった内容になるかとは思いますが、まだスペースに余裕がありますので、計画自体についても知っているか聞くことは考えられます。

虐待については、現在男女共同参画の計画も作っておりますので、そちらと相談しながら作っていきたいと思いますので、預からせてください。

◎**金子委員長**：この調査票は障がいのある人に届くことはないのですか。

◎**事務局**：障害者手帳をお持ちの方には悉皆調査を行います。この調査は障害者手帳をお持ちの方には届かないよう、抽出します。

また、この調査は10月1日現在で小金井市に住所をおいている方を対象としていますので、入院したり、市外の施設に入ったりした人は、ご自宅に調査票が届きますので、受け取ったご家族の方等がご本人と連絡を取ってご回答いただければと考えております。その際に例えば市外の施設から書いていただける方もいるかと思いますが、「その他」を設けたいと思います。

◎**金子委員長**：例えば知り合いに障害のある方がいて、その人が避難時にどう過ごすか心配だ、みたいなこともあるかと思いますが。

◎**矢野委員**：私たち健常者が、避難所で障がいのある人がいたときにどう受け止めるかということが大事だと思います。内部疾患の人は見た目では分かりませんが、配慮しなくてはいけない方もいらっしゃると思います。そういうときに避難所運営をスムーズにできないといけないと思います。

3. 11の東北の地震を受けて、どこの自治体でもそういう計画を作ったのに、熊本の地震では対応が出来なかったというのが事実なので、やはり健常者の人たちが中心になって受け入れていかななくてはならないのではないかという思いがあります。

金子委員長：物理的な面と、市民や子どもたちに受け入れてもらうための心の面と、二面性があると思います。それをどう聞くかが問題ですので、入れられそうかどうかご検討していただきたいと思います。

◎**矢野委員**：障がい者計画の調査では入れてもらうように頼みました。

◎**金子委員長**：そちらとの調整もして検討してもらいたいと思います。

◎**羽田野委員**：問4で「自宅以外にいける居場所」を聞いていますが、これの頻度を聞いたらどうかと思います。

問22で「情報をどの程度入手できていますか」という問で「3 ほとんど入手できていない」と答えた人にその次の問で「どこから入手していますか」と聞くのはおかしいのではないかと思います。例えば「どこから入手したいですか」とするとか、検討してもらえますか。

◎**橋本委員**：F5の「9 専門的職業」とあり、弁護士等の例が示されていますが、保健福祉総合計画ですので、その中に福祉職があってもいいのではないかと思います。

◎事務局：前回この選択肢でたずねており、一応継続を図るという意味でそのままにしておりましたが、おっしゃるとおり福祉職もありますので、検討させていただきたいと思います。

◎深澤副委員長：問13で社会福祉協議会、自立相談サポートセンターは載っているのですが、問21にもある権利擁護センターも問13に入れていただいたほうがいいと思います。

◎齋藤委員：問4で居場所の有無について、ないという人は欲しいけどないのか、必要ないのかを聞いたほうがいいと思います。

問5で、小学校区と中学校区について、どのくらいの人口規模なのかとか、注釈をお願いします。

◎事務局：注釈をつけさせていただきます。

◎金子委員長：例えばパチンコ屋は居場所なのかどうかともあります。

◎宮井委員：問10に入力ミスがあります。

②担い手調査について

◎金子委員長：では次の担い手調査について、ご意見・ご質問等はございますか。

◎高橋委員：ボランティアの市民活動団体リストを見て、視覚障害者の会はあるが聴覚障害者の会はないようです。この間ボランティアセンターに聞いたら、実際に活動している団体は200から300はいるとのことでしたので、これだけでは少ないと思います。

問7の「保護者会・PTA」の保護者会は何を意味しているのでしょうか。また、サークルとか行政、自助グループも項目に追加してもいいと思います。

問13の1番が「日ごろから連携」なので、2番は「たまに」や「ときどき支援を受ける」としたほうがいいと思います。

問14ですが、「小金井市との事業」「小金井市の事業」というのが良く分からないのですが、主語を私たちとするなら、「小金井市と～」というのは取って、「事業・イベントの共催」というふうにしたほうがいいのではないのでしょうか。

問15、16も問13、14と一緒にです。

問17で「ひきこもり」がありますが、「不登校」も追加したらいいと思います。ヘルパーさんが家に入ったときに、学校にいる時間に家にいる不登校の人を見つけたという話も聞きました。

問22で、「地域の支え合いの仕組みづくりで」という問の中で、「10 福祉に頼る以前に、まず個人・家族で努力すべき」があるのは、突き放したような印象を受け、違和感があります。

◎事務局：問7の保護者会は幼稚園・保育園をイメージしていましたが、説明を加えたいと思います。問7の選択肢は具体的なグループや機関というより、分野で選択肢を設けていますが、行政については追加させていただきたいと思います。

問14、16は市や社協といった言葉を取ったほうがわかりやすいというご指摘だと思いますので、検討させていただきます。

問22は一般市民調査と同じ質問で、前回からの継続質問です。これから地域づくり

をがんばろうというところでこの選択肢はどうか、ということもありますが、こういう意見をお持ちの方もいなくはないので、設けさせていただいています。

宮城委員：問7で、ある地域では寺社仏閣や教会が交流の場になっているということですので、頻度が多いようであれば入れていただければと思います。

◎事務局：まったく協力関係がないわけではないと思いますが、その他で書いていただくことも考えられます。

◎橋本委員：対象者に社会福祉法人も入れていただけたらと思います。社会福祉法の改正で、社会福祉法人の公益的な取り組みが責務となり、これからはじめていこうという時期ですし、実際に社会福祉法人さんは地域のためにも福祉的な活動をしていますので、十分アンケート調査の対象になると思います。問7、問18の※部分にも社会福祉法人を追加していいと思います。

◎山極委員：抽出条件が活動団体リストに制限されていますが、それが必要十分なのか精査する必要があると思います。今も社会福祉法人が抜けているという意見がありましたように、考えていただきたいと思います。

◎宮井委員：F5の「メンバー」というのは職員なのか、利用者も含めてメンバーなのか、捕らえづらいと思います。

問4で「助成金」とありますが、これは純粋に助成金のみなのか、補助金等も含まれるのか、分かりづらいと感じました。

◎事務局：「メンバー」は職員のみをイメージしていましたが、言葉については検討させていただきます。助成金も、列挙させていただきたいと思います。

◎山極委員：問9「貴団体の活動で」というのは、事業でやっている団体にはイメージしにくいかと思います。最初の質問でNPOや任意団体の民間よりなものをイメージしているかと思いますが、全体を意識して考えていただきたいと思います。

◎深澤委員：問3事業費の金額ですが、小さいNPO等では最高と最低の金額の差が広すぎると思います。逆に問4の助成金では、今は最低が50万円未満ですが、小さいNPOはそんなにももらっていないと思います。問5の人件費も同様です。

◎矢野委員：F1でNPO、任意団体といっているので、純粋に、公民館や社協に登録しているようなボランティア団体について言っているのだと思っていました。社会福祉法人は障害の調査でも聞くので、重複するかと思いますので、どこを押さえるのかはつきりさせて聞いたほうがいいと思います。

◎金子委員長：ほかの高齢や障害の計画でも同じような調査が行われると思いますが、そこで社会福祉法人への調査が行われるかということですが、いかがですか。

◎事務局：当初はNPOや任意団体を対象に考えていましたが、本日社会福祉法人も追加したほうがいいという意見が出ました。障害と介護については事業者向けアンケートを行いますので、場合によっては一つの団体に2つ、3つと届いてしまうことも考えられますので、事業者さんの負担にならないように調整させていただきます。

◎金子委員長：担い手調査の意味を明確にしてやればよいということで、一度考えさせていただこうと思います。本日はもう時間が迫っていますので、この後も直接、1週間程度をめどに委員の皆さんから意見を頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。

◎事務局：16日水曜日までに限らせていただけますでしょうか。

◎金子委員長：それでは16日までにご意見がございましたら事務局までご連絡いただければと思います。本日頂いた意見をもう一度事務局で精査して、アンケート調査票を最終決定させていただければと思っております。

8. 次回日程等について

◎地域福祉課長：次回は平成29年3月9日の18時30分からとさせていただきます。

9. 謝礼振込みに関する事務処理について